

超低線量CT

肺ドック

肺がんは日本人のがん死亡数 **第1位**

所要時間 **10分(平日午後)** 料金:**9,900円(税込)**

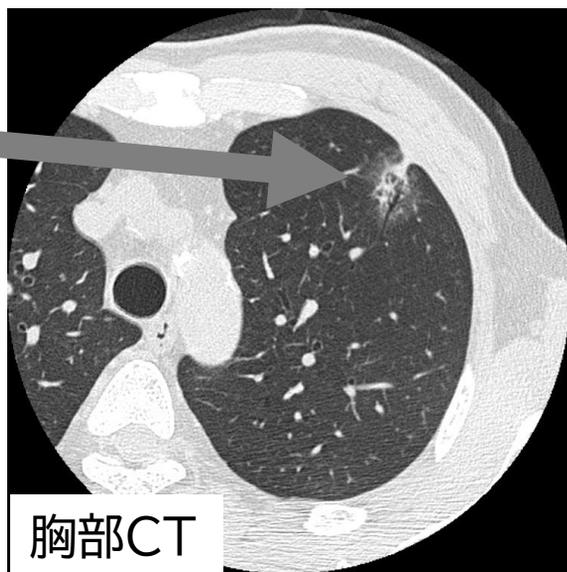
内容:**超低線量CT検査** 結果:**専門医による報告書(郵送)**

胸部レントゲンでは発見できない肺がんの例



胸部X線

骨陰影等と重なりわからない



胸部CT

部分充実型結節 早期肺腺がん

最新の320列CT

低被曝かつ高画質の撮影が可能な最新320列CTでの超低線量CT(X線検査の数倍程度の被曝量)にて、胸部X線検査ではわからないような小型肺がんの早期発見が可能!



超低線量CT検査のご案内

● 肺がんとは

肺がんは、気管支や肺胞の細胞が何らかの原因でがん化したものです。2021年の死亡数では肺がんが1位です。その理由として、早期には自覚症状が現れにくく、進行してから咳や痰、発熱、胸痛、息苦しさが出現することが多く気づきにくいことや、他のがんと比較して進行が早く転移しやすいことなどがあります。肺がんの発症は50歳代から増え始め60歳以降さらに増加します。喫煙者は、非喫煙者と比べて5-10倍かかりやすいことがわかっていますが、非喫煙者でも肺がんになる可能性があります。

● 低線量CT検査の目的

日本人の肺がん死亡率は、第1位と最も高く、年々増加する傾向です。進行したり転移したりする前の早期の段階で肺がんを見つけることで、治癒する可能性が高まります。現在、胸部X線検査が肺がん検診として行われていますが、胸部レントゲン検査では検出できないような小型肺癌や検出困難な部位の肺癌を見つけるためには、低線量CT検査が有用です。健康な方を対象とするため、一般診療で使用するよりも被曝線量を下げた低線量CTで撮影します。一般的にはCT検査で被曝線量を下げると画質は低下するとされていますが、肺がんや他の肺病変・縦隔病変を「発見」するには十分な条件で撮影します。

● 低線量CT検査の成績

低線量CT検査では、胸部レントゲンでは発見できないような、より小さく早期の肺がんを発見できることができます。米国とオランダ・ベルギーでの重喫煙者を対象とした低線量CT検査では肺がん死亡率を減らす効果があることが報告されています。

● 当院での低線量CT検査の特徴と方法

我々が受ける自然放射線の線量は1年間で約2ミリシーベルトです。低線量CT肺ドックでは、1回の検査で標準的には約1.5ミリシーベルト程度の線量で撮影されています。

当院では、人工知能技術を応用した最新の画像再構成技術(AiCE)を搭載したCanon社製の最新の320列CT (Aquilion ONE)を使用することで、0.5ミリシーベルト(胸部レントゲン正面+側面の線量の数倍程度)と超低線量であっても標準的な低線量CTと同等の画質にて撮影を行っています。

放射線科専門医1名と肺がんCT検診認定医師1名が2重チェックにて読影と判定を行い、後日郵送にて結果を報告します。

.....ご注意ください.....

対象外:肺がん疑い、肺がんで受診中、植込み型除細動器や心臓ペースメーカーを使用中

.....お申込み方法.....

予約制のため、ご来院もしくはお電話で申し込みください

千葉中央メディカルセンター 人間ドック予約窓口

TEL: 043-379-7667(平日10-16時)